

はじめに

コース概要と目的

WebFOCUSをはじめてお使いになる方を対象に、アプリケーション開発の基礎についてご覧いただくコースです。WebFOCUSの用語や概念、開発ツールであるApp Studioの基本操作、データベースに接続してレポートを作成する手順、Webページを作成する手順について学び、WebFOCUSの基本的なアプリケーションを開発できるようになることを目的としております。

受講対象

Windowsの基本的な操作(マウス操作やキーボード操作)ができる方。

製品のバージョン

本テキストで解説しているWebFOCUSとApp Studioは、以下のバージョンを使用しています。

- ・WebFOCUS 8.2
- ・App Studio 8.2

研修環境

本コースでは、製品のインストールや環境設定、データベースとの接続の設定なども完了した状態で研修を進行していきます。

研修環境のWebFOCUSとApp Studioは、WindowsのUnicode環境(文字コード UTF-8)で構成されています。また、サンプルデータベースはMicrosoft Accessを使用しています。

なお、研修環境では操作しやすいように初期設定を一部変更しているため、研修と同じ環境で開発したい場合は、アフターサポートサービスの資料をご参照ください。

テキスト中の表記について

画面中に表示される文字の表記

ウインドウ、ボタン、メニューなど、画面に表示される文字は「」で囲んで表記しています。

画面上に表示される選択肢や、入力する文字については「」で囲んで表記しています。

ディレクトリの表記

本テキストではファイルのパスを表す際、全てデフォルトのインストールディレクトリを基準に表記しています。

WebFOCUSのインストールディレクトリは「C:\¥ibi」となります。お客様の環境と異なる場合は、適宜読み替えてください。

コマンドの構文規約

値	この表記は、ユーザーが適切な値に置き換えて指定することを表します。
{ 値 1 値 2 値 3 }	この表記は { } の中から、いずれか 1 つを選択することを表します。
[値]	この表記はその指定が任意に指定できる、オプションの指定であることを表します。必ずしも指定する必要はありません。

- ・Active Technologies、FOCUS、Information Builders、Information Buildersのロゴ、WebFOCUS、WebFOCUS Active Technologies、およびHyperstageは、Information Builders, Incの商標です。
- ・Microsoft、Windows、Windows Server、Microsoft Office、SQL Server、Internet Explorer、Microsoft Edge、その他本書に記載されるマイクロソフト製品は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標です。
- ・OracleとJavaは、Oracle Corporation 及びその子会社、関連会社の米国及びその他の国における登録商標です。文中の社名、商品名等は各社の商標または登録商標である場合があります。
- ・IBM、ibm.com、およびDB2は、International Business Machines Corporationの商標であり、世界中の多くの国で登録されています。
- ・Mac、macOS、Safari、iPhone、iPadは、米国およびその他の国で登録されたApple Inc.の商標です。
- ・Google Chrome、AndroidはGoogle LLCの商標です。
- ・Adobe、Adobeロゴ、Adobe PDFのロゴ、Acrobat、Flashは、Adobe Systemsの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- ・Apache、Apache Tomcat、およびTomcatは、Apache Software Foundationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。Apache Software Foundationによる保証は、これらのマークの使用によって暗示されるものではありません。
- ・Mozilla、Firefox、Firefoxのロゴは、米国およびその他の国におけるMozilla Foundationの商標です。

- ・その他、記載されている会社名および製品名は、各社の登録商標または商標です。
- ・本書では、®、©、TMマークなどは特に明記していません。
- ・本書に記載された内容を使用して、いかなる損害が発生しても、株式会社アシスト、および、著者、本書製作関係者は一切責任を負いません。

目次

第1章 WebFOCUS概要

1.1 コース概要.....	1-1
1.1.1 本コースの概要と目的.....	1-1
1.2 WebFOCUS概要.....	1-2
1.2.1 WebFOCUSとは.....	1-2
1.3 WebFOCUSのアプリケーション開発.....	1-4
1.3.1 WebFOCUSのアプリケーション開発.....	1-4
1.3.2 プロシジャ.....	1-5
1.3.3 Webページ.....	1-6
1.3.4 App Studioとポータル.....	1-7
1.3.5 ユーザーへの公開.....	1-10
1.3.6 ポータルを使用しない環境.....	1-11
1.4 第1章のまとめ.....	1-12

第2章 データベース接続

2.1 データベース接続.....	2-1
2.1.1 データベース接続.....	2-1
2.1.2 データアダプタ.....	2-2
2.1.3 シノニム.....	2-5
2.1.4 マスターファイルとアクセスファイル.....	2-8
2.2 第2章のまとめ.....	2-10

第3章 レポート作成の基本

3.1 事前準備とファイルの表示設定.....	3-1
3.1.1 事前準備.....	3-1
3.1.2 ファイルの表示設定.....	3-3
3.2 レポート作成の基本.....	3-4
3.2.1 レポートキャンバス.....	3-4
3.2.2 項目の表示設定 (PRINT、SUM、BY、ACROSS).....	3-10
3.3 項目の詳細設定.....	3-16
3.3.1 BY、ACROSS項目の詳細設定.....	3-16
3.3.2 タイトルとフォーマットの変更.....	3-20
3.4 第3章のまとめ.....	3-24

第4章 選択条件

4.1 選択条件.....	4-1
4.1.1 選択条件.....	4-1
4.1.2 選択条件の設定方法.....	4-2
4.1.3 固定値の選択条件.....	4-4
4.1.4 変数の選択条件.....	4-10
4.2 第4章のまとめ.....	4-18

第5章 複数テーブルの検索 (JOIN)

5.1 複数テーブルの検索 (JOIN).....	5-1
5.1.1 複数テーブルの検索 (JOIN).....	5-1
5.1.2 INNER JOINとLEFT OUTER JOIN.....	5-10
5.2 第5章のまとめ.....	5-16

第6章 計算式の作成

6.1 計算式の作成.....	6-1
6.1.1 計算式の作成.....	6-1
6.2 接頭語.....	6-2
6.2.1 接頭語.....	6-2
6.2.2 接頭語の詳細設定.....	6-5
6.3 一時項目(COMPUTE、DEFINE).....	6-9
6.3.1 一時項目(COMPUTE、DEFINE).....	6-9
6.3.2 COMPUTEによる一時項目の作成.....	6-11
6.3.3 演算式中に一時項目を指定する際の注意点.....	6-17
6.3.4 DEFINEによる一時項目の作成.....	6-19
6.3.5 COMPUTEとDEFINEの違い.....	6-24
6.3.6 マスターファイル中のCOMPUTE、DEFINE.....	6-25
6.4 第6章のまとめ.....	6-26

第7章 合計値と見出し

7.1 合計値.....	7-1
7.1.1 合計値.....	7-1
7.1.2 縦合計と再計算.....	7-5
7.2 見出しと脚注.....	7-10
7.2.1 見出しと脚注.....	7-10
7.2.2 項目値の表示と改ページ(Webビューア).....	7-14
7.3 第7章のまとめ.....	7-24

第8章 スタイルと出力形式

8.1 レポートのスタイル設定.....	8-1
8.1.1 レポートのスタイル設定.....	8-1
8.1.2 テーマ.....	8-5
8.1.3 条件付きスタイル設定.....	8-10
8.1.4 ピアグラフ.....	8-16
8.2 出力形式の変更.....	8-21
8.2.1 出力形式の変更.....	8-21
8.2.2 Excel形式の設定.....	8-21
8.2.3 出力形式ユーザ.....	8-27
8.3 第8章のまとめ.....	8-32

第9章 ドリルダウン

9.1 ドリルダウン.....	9-1
9.1.1 ドリルダウンとは.....	9-1
9.1.2 2段階以上のドリルダウンとWebページからの実行.....	9-10
9.1.3 ドリルダウンの注意事項.....	9-16
9.1.4 ドリルダウン先を複数設定する.....	9-17
9.2 第9章のまとめ.....	9-18

第10章 グラフ

10.1 グラフ作成の基本操作.....	10-1
10.1.1 グラフキャンバス.....	10-1
10.2 グラフの作成.....	10-2
10.2.1 棒グラフと円グラフ.....	10-2
10.2.2 積み上げ棒グラフ.....	10-11
10.2.3 複合グラフと2軸グラフ.....	10-17
10.2.4 インサイト.....	10-23
10.3 第10章のまとめ.....	10-24

第11章 Webページ

11.1 Webページの作成.....	11-1
11.1.1 Webページ作成概要.....	11-1
11.1.2 HTMLキャンバス.....	11-2
11.2 Webページの作成の基礎.....	11-3
11.2.1 Webページ作成の基礎.....	11-3
11.3 入力コントロール.....	11-11
11.3.1 基本的な入力コントロールの作成.....	11-10
11.3.2 入力コントロールの連鎖.....	11-28
11.3.3 入力コントロールのオプション設定.....	11-40
11.3.4 複数プロシジャ共通の入力コントロール.....	11-47
11.4 第11章のまとめ.....	11-53

第12章 総合実習

12.1 総合実習1.....	12-1
12.1.1 総合実習1.....	12-1
12.1.2 総合実習1 解答.....	12-1
12.2 参考問題1.....	12-5
12.2.1 参考問題1.....	12-5
12.2.2 参考問題1 解答.....	12-6
12.3 総合実習2.....	12-7
12.3.1 総合実習2.....	12-7
12.3.2 総合実習2 課題1 ドリルダウン先レポートの作成.....	12-8
12.3.3 総合実習2 解答1 ドリルダウン先レポートの作成.....	12-8
12.3.4 総合実習2 課題2 ドリルダウン元レポートの作成.....	12-10
12.3.5 総合実習2 解答2 ドリルダウン元レポートの作成.....	12-10
12.3.6 総合実習2 課題3 グラフの作成.....	12-13
12.3.7 総合実習2 解答3 グラフの作成.....	12-13
12.3.8 総合実習2 課題4 Webページの作成.....	12-16
12.3.9 総合実習2 解答4 Webページの作成.....	12-16
12.4 参考問題2.....	12-19
12.4.1 参考問題2.....	12-19
12.4.2 参考問題2 解答.....	12-19

A 付録

A.1 第3章 レポート作成の基本 補足.....	A-1
A.1.1 フォーマットタイプ.....	A-1
A.2 第4章 選択条件 補足.....	A-2
A.2.1 論理関係(比較子).....	A-2
A.2.2 比較タイプ.....	A-3
A.3 第6章 計算式の作成 補足.....	A-4
A.3.1 接頭語の一覧.....	A-4
A.3.2 NULL値は件数に含まれない.....	A-5
A.4 第8章 スタイルと出力形式 補足.....	A-6
A.4.1 代替色.....	A-6
A.4.2 項目の改行表示(OVER).....	A-7
A.4.3 項目タイトルの固定.....	A-8
A.4.4 アコーディオンレポート.....	A-9
A.4.5 Excelテンプレート.....	A-10
A.5 第9章 ドリルダウン 補足.....	A-12
A.5.1 ドリルダウングラフ.....	A-12
A.5.2 オートリンク.....	A-14
A.5.3 オートドリルダウン.....	A-16
A.6 第11章 Webページ 補足.....	A-18
A.6.1 HTMLファイルの保存先フォルダを移動した際の注意点.....	A-18
A.6.2 選択条件のパラメータセットの保存とロード.....	A-19

1.2 WebFOCUS概要

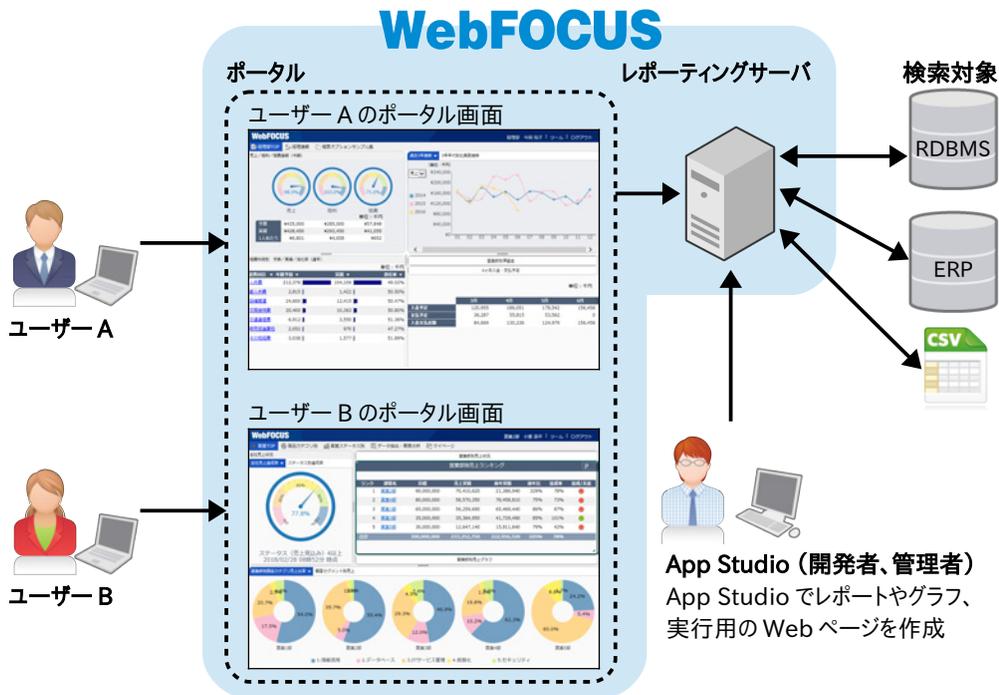
1.2.1 WebFOCUSとは

WebFOCUSとは、参照系に特化したWebアプリケーション開発ツールです。企業内の様々なデータを分かりやすいレポートやグラフの形でユーザーに提供できます。また、ユーザーの管理やユーザーごとにポータル画面の提供なども行えます。

WebFOCUSの全体像

WebFOCUSの全体像を理解するために、ポータル、レポートングサーバ、App Studioの役割を確認します。

- ポータルは、ユーザーにポータル画面を提供します。
ユーザーはブラウザからポータルにログインし、自分用のポータル画面からレポートやグラフを閲覧できます。
- レポートングサーバは、ポータルの背後で動作する実行エンジンです。
データベースへの接続、レポートやグラフの作成はレポートングサーバが行っています。
- App Studioは、WebFOCUSの開発ツールです。
開発者や管理者はApp Studioを使用し、レポートやグラフ、Webページを作成し、ユーザーに公開します。



WebFOCUSには、ポータルとレポートングサーバ以外にも、WebFOCUSクライアント、ReportCaster、Resource Analyzerなどの製品があります。

なお、ライセンスによっては、ポータルを使用せずにレポートング環境を構築することもできます。ポータルを使用しない場合の注意事項については、第1章 p.1-11『1.3.6 ポータルを使用しない環境』をご参照ください。

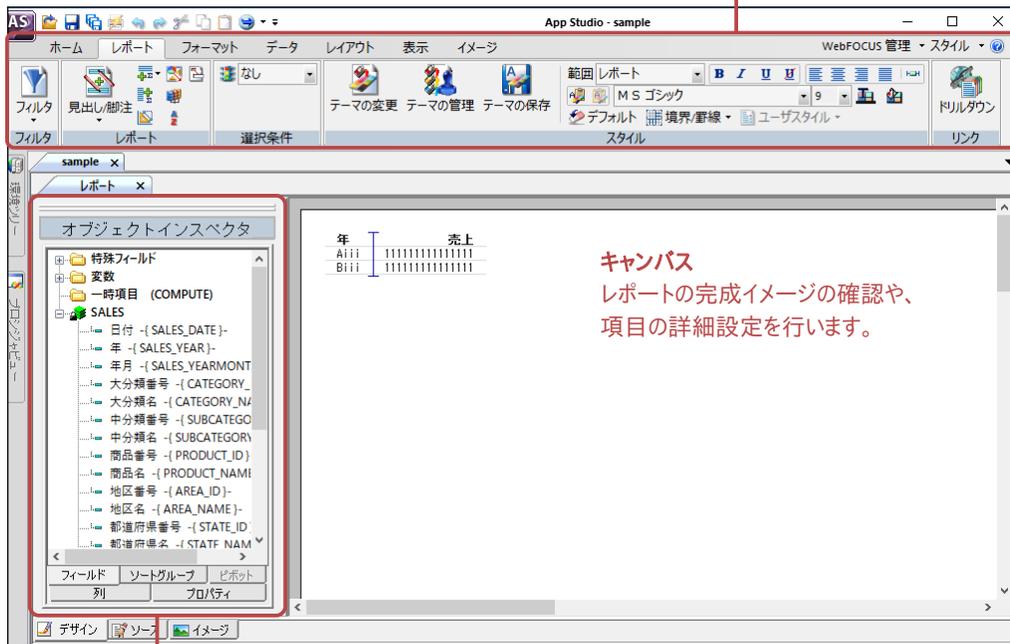
3.2 レポート作成の基本

3.2.1 レポートキャンバス

レポートキャンバスとは、App Studioのレポート作成ツールです。
 レポートに表示する項目の選択、項目の詳細設定、選択条件の設定、出力形式の設定などのレポートに関する設定は、ほぼ全てレポートキャンバスから行います。

リボン

[ホーム]タブ以外はレポート編集用の機能です。
 上部のタブを切り替えて使用します。



キャンバス

レポートの完成イメージの確認や、
 項目の詳細設定を行います。

オブジェクトインスペクタ

項目の一覧が表示され、ここからキャンバスに
 項目を追加します。

3.2.2 項目の表示設定（PRINT、SUM、BY、ACROSS）

レポートキャンパスに項目を貼り付けた後、各項目をどのように使用するかを指定します。
 レポートキャンパスの[PRINT]、[SUM]、[BY]、[ACROSS]の4つのボタンを使用して、各項目に対して明細、集計、並べ替えの指定をします。
 この4つのボタンは、[フィールド]タブの[フィールドタイプ]グループにあります。

[フィールド]タブの[フィールドタイプ]グループ



ボタン	説明
PRINT	明細。 値を1件1件そのまま表示します。
SUM	集計。 値を集計します。数値項目の初期設定です。
BY	並べ替えとグループ化。 値を縦方向に並べ替えます。文字項目と日付項目の初期設定です。
ACROSS	並べ替えとグループ化。 値を横方向に並べ替えます。

項目を貼り付けた直後は、数値項目にはSUMが、文字項目と日付項目にはBYが割り当てられています。

WebFOCUSで作成するレポートのパターン

明細レポート

年	地区番号	地区名	売上
2012	1	北海道	223200
			312360
			136160
			117600
			416000
			73380
			130800
			668450
			1040000
			32800
			293420
			32400
			651300
			35120
			21620
			179530
			297960
			101250

集計レポート

年	地区番号	地区名	売上
2012	1	北海道	250939330
	2	東北	226633130
	3	関東	289862330
	4	中部	408539070
	5	近畿	302522250
	6	中国	146694580
	7	四国	95725510
	8	九州	78853340
2013	1	北海道	239918510
	2	東北	198067970
	3	関東	305795870
	4	中部	400697700
	5	近畿	302304320
	6	中国	133098320
	7	四国	101574630
	8	九州	68517630
2014	1	北海道	237986420
	2	東北	205260570

クロス集計レポート

地区番号	年	2012	2013	2014	2015	2016
1	北海道	250939330	239918510	237986420	245289160	112754120
2	東北	226633130	198067970	205260570	176438180	84240050
3	関東	289862330	305795870	300294450	292163480	149046760
4	中部	408539070	400697700	423087300	385552700	200527580
5	近畿	302522250	302304320	338030560	321943820	148144790
6	中国	146694580	133098320	127988420	142825340	80776210
7	四国	95725510	101574630	85221360	82322710	48423780
8	九州	78853340	68517630	78177670	76274480	31830860

例題2 項目の表示（明細、集計、並べ替え、グループ化）

sales.masを使用して、年、地区番号、地区名、売上を表示します。
項目の基本設定として、明細や集計の表示、並べ替えなどを設定します。

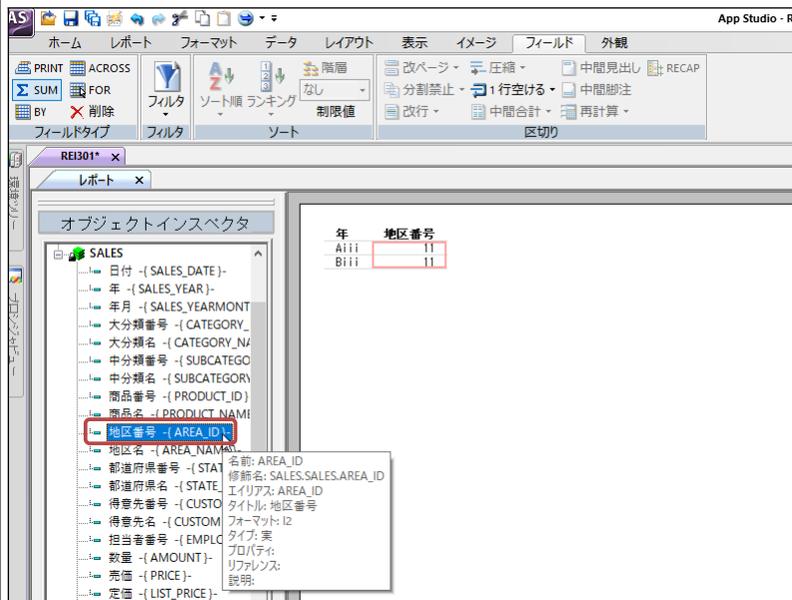
年、地区番号、地区名ごとに並べ替えて集計

年	地区番号	地区名	売上
2012	1	北海道	250938330
	2	東北	226633130
	3	関東	289862330
	4	中部	408539070
	5	近畿	302522250
	6	中国	146694580
	7	四国	95725510
	8	九州	78853340
2013	1	北海道	239918510
	2	東北	198067970
	3	関東	305795870
	4	中部	400697700
	5	近畿	302304320
	6	中国	133098320
	7	四国	101574630
	8	九州	68517630
2014	1	北海道	237386420
	2	東北	205260570

地区番号、地区名を縦、年を横に展開して集計

地区番号	地区名	年				
		2012	2013	2014	2015	2016
1	北海道	250938330	239918510	237386420	245289160	112754120
2	東北	226633130	198067970	205260570	176438180	94240050
3	関東	289862330	305795870	300234450	292163480	149046780
4	中部	408539070	400697700	429087300	385552700	200527580
5	近畿	302522250	302304320	338030560	321943820	148144780
6	中国	146694580	133098320	127886420	142825340	80776210
7	四国	95725510	101574630	85221360	82322710	48423780
8	九州	78853340	68517630	78177870	78274480	31830860

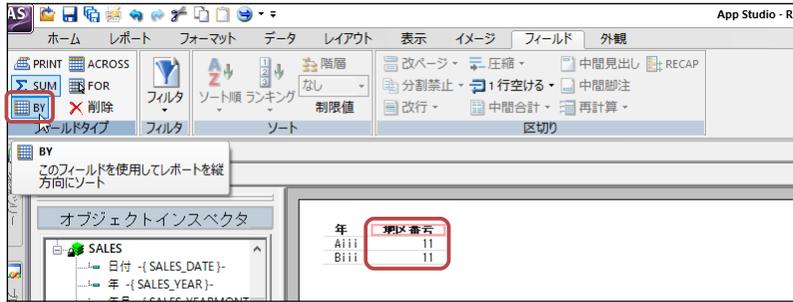
- 1 プロシジャREI301を編集します。
[オブジェクトインスペクタ]の地区番号をダブルクリックして貼り付けます。地区番号は数値項目のため、集計の[SUM]が設定されます。



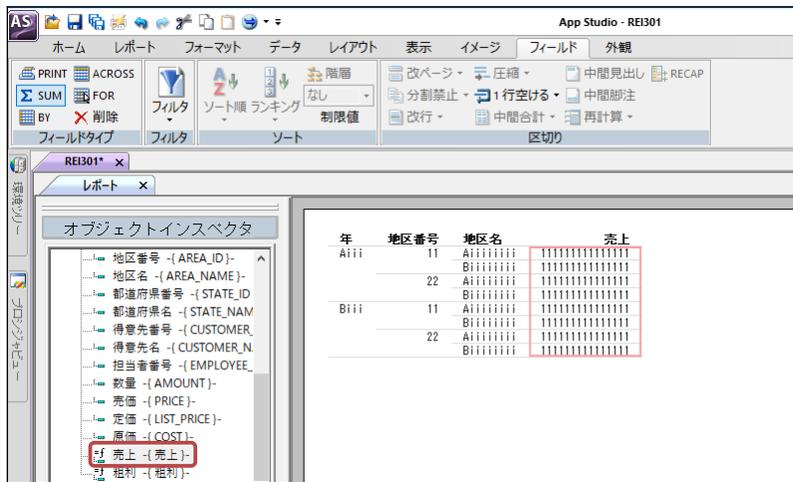
Tip

項目のフォーマットは、[オブジェクトインスペクタ]の項目にカーソルを当てて、ポップアップの[フォーマット]で確認できます。

- 2 今回は地区番号は並べ替えの項目にするため、並べ替えのBYに変更します。地区番号を選択し、[フィールド]タブの[BY]をクリックします。



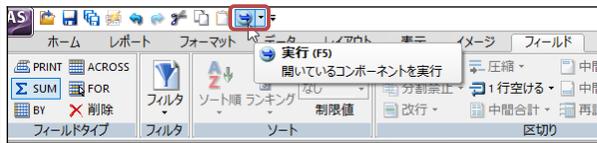
- 3 地区名と売上をダブルクリックで貼り付けます。



Tip

地区番号を[BY]にせず、[SUM]の設定のままで地区名を追加すると、地区名をSUMで追加するためのメッセージが表示されます。地区名はBYで追加したいので、メッセージが表示された場合は、[キャンセル]ボタンをクリックし、地区番号を[BY]に変更してから地区名の追加を行ってください。

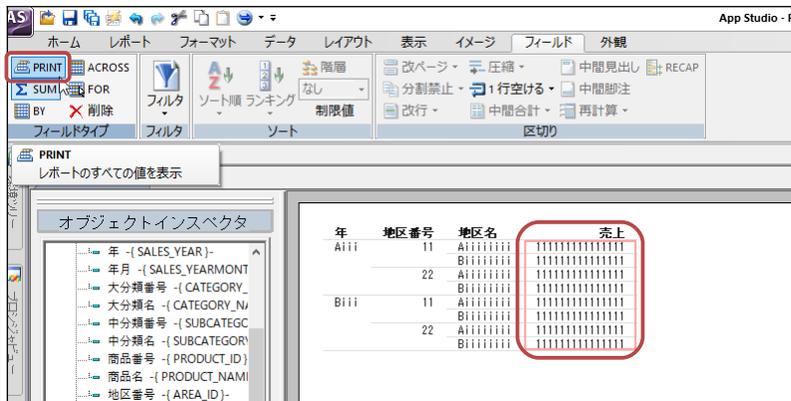
- 4 実行して結果を確認します。



5 年と地区ごとに売上を集計しています。

年	地区番号	地区名	売上
2012	1	北海道	250938330
	2	東北	226633130
	3	関東	289862330
	4	中部	408539070
	5	近畿	302522250
	6	中国	148694580
	7	四国	95725510
	8	九州	78853340
2013	1	北海道	239918510
	2	東北	198067970
	3	関東	305795870
	4	中部	400697700
	5	近畿	302304320
	6	中国	133098320
	7	四国	101574630
	8	九州	68517630
2014	1	北海道	237388420
	2	東北	205260570

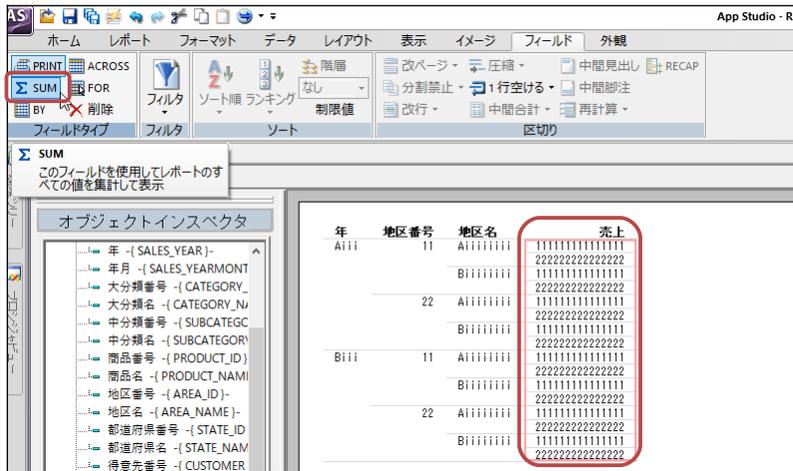
6 売上を明細で表示します。
売上を選択し、[フィールド]タブの[PRINT]をクリックします。



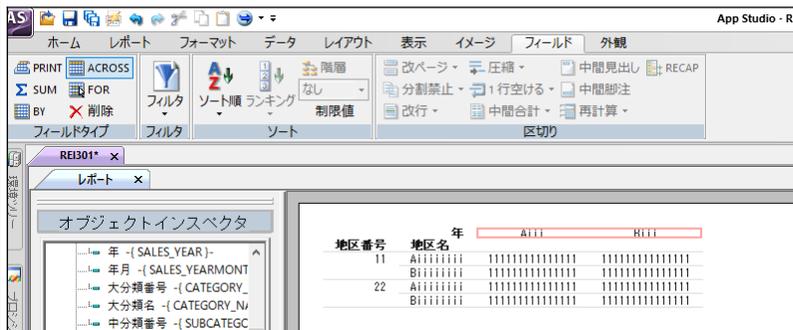
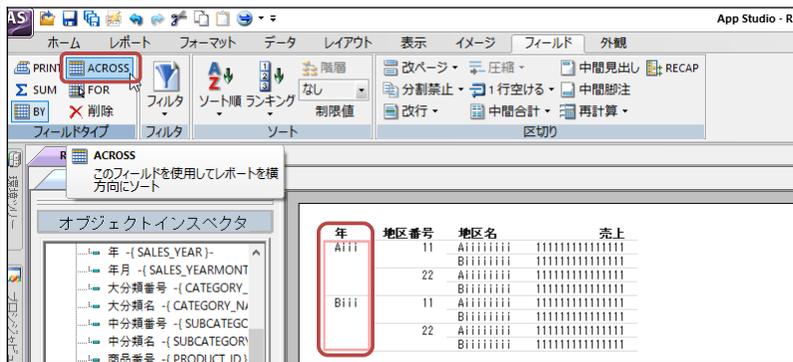
7 実行して結果を確認します。
売上が1件1件明細で表示されました。

年	地区番号	地区名	売上
2012	1	北海道	223200
			312360
			136180
			117600
			416000
			73380
			130800
			689450
			1040000
			32800
			293420
			32400
			651300

- 8 売上を明細から集計に戻します。
売上を選択し、[フィールド]タブの[SUM]ボタンをクリックします。



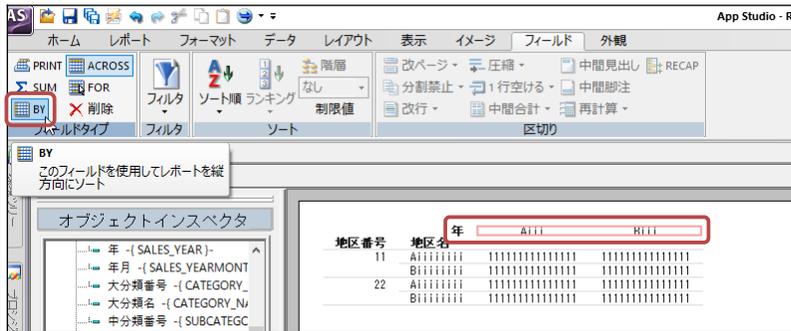
- 9 年を横方向に並べ替え、表形式のレポートにします。
年を選択し、[ACROSS]ボタンをクリックします。



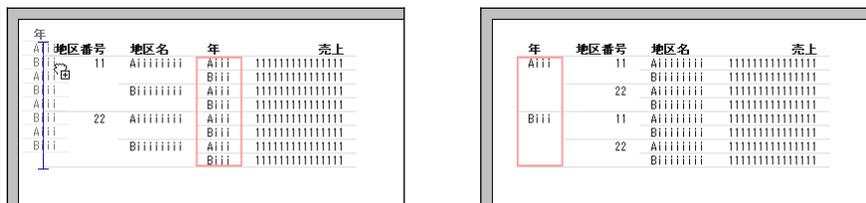
- 10 実行して結果を確認します。
年を横方向に並べ替えたレポートが作成されました。

地区番号	地区名	年	2012	2013	2014	2015	2016
1	北海道		250988330	239918510	297886420	245289160	112754120
2	東北		226838130	198067970	205280570	176438180	94240050
3	関東		289862930	305795870	300294450	292163480	149046760
4	中部		408599070	400697700	429087300	385552700	200527580
5	近畿		302522250	302304920	338030560	321943820	148144730
6	中国		146894580	138098820	127988420	142825340	80778210
7	四国		95725510	101574630	85221360	82322710	48423780
8	九州		78853340	68517630	78177670	76274480	31830860

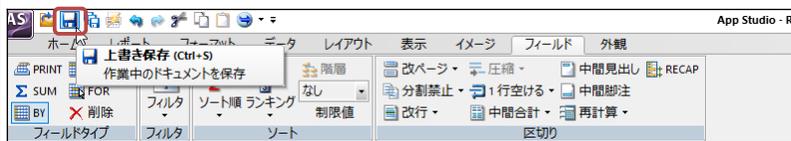
- 11 年を縦方向の並べ替えに戻します。
年を選択し、[BY] ボタンをクリックします



- 12 項目の順序を整えます。
3つ目のBY項目に設定された年を選択し、ドラッグ&ドロップで左端に移動します



- 13 [上書き保存] ボタンをクリックし、保存します。



10.1 グラフ作成の基本操作

10.1.1 グラフキャンバス

WebFOCUSでは、グラフキャンバスを使用してグラフの作成を行います。
 グラフキャンバスを起動すると、上部のリボンにグラフ編集用のタブが表示されます。

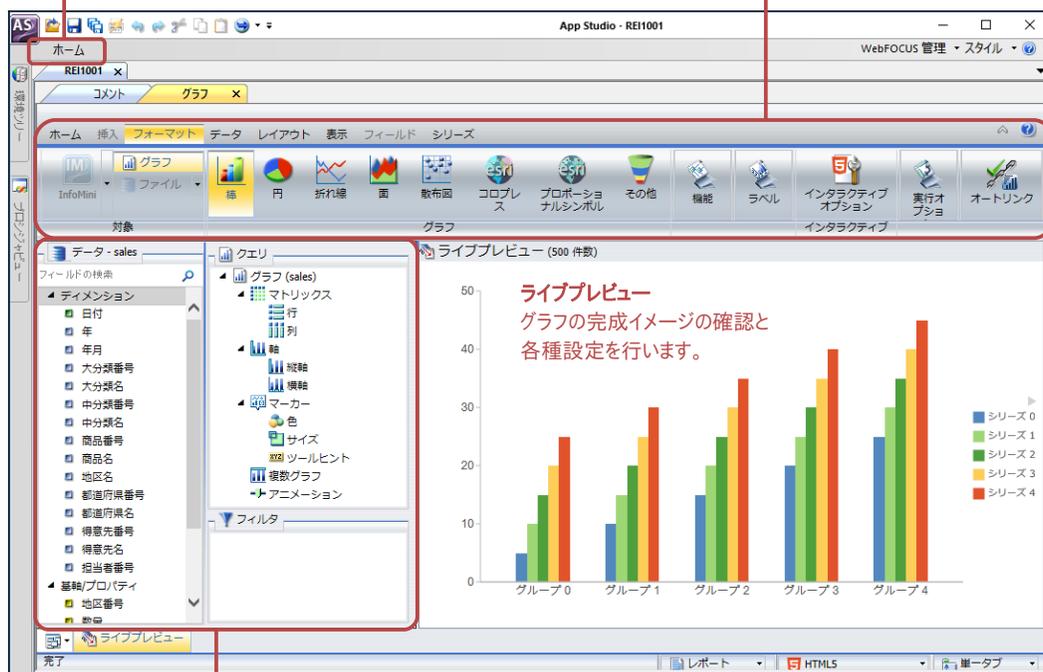
画面左のパネルで項目の確認や選択を行い、画面右のキャンバスで完成イメージの確認や詳細設定を行います。

[ホーム]タブ

App Studioの[ホーム]タブです。

リボン

グラフ編集用のタブです。上部のタブで切り替えができ、ボタンはグループ分けされています。



データ/クエリ/フィルタ

データは項目の一覧です。クエリで項目の設定、フィルタで選択条件を設定します。

ライブプレビューに表示される完成イメージは、初期設定では実際のデータを500件抽出して作成しています。
 [ホーム]タブの[サンプルデータ]をクリックすると、サンプルデータを使用して完成イメージを作成します。



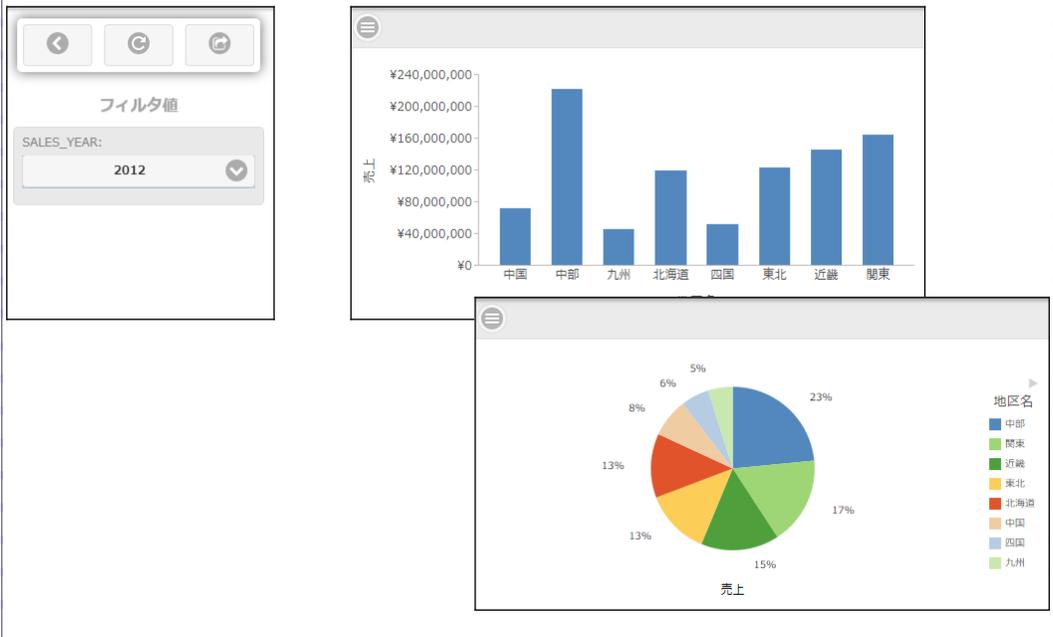
10.2 グラフの作成

10.2.1 棒グラフと円グラフ

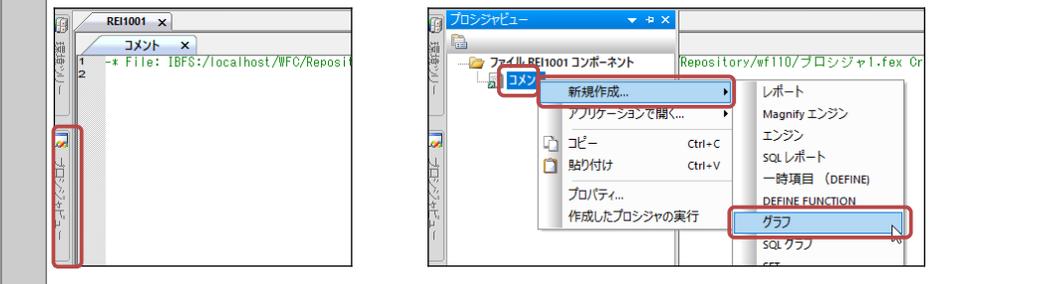
グラフキャンバスを使用し、基本的なグラフとして棒グラフと円グラフを作成しましょう。

例題1 基本的なグラフの作成

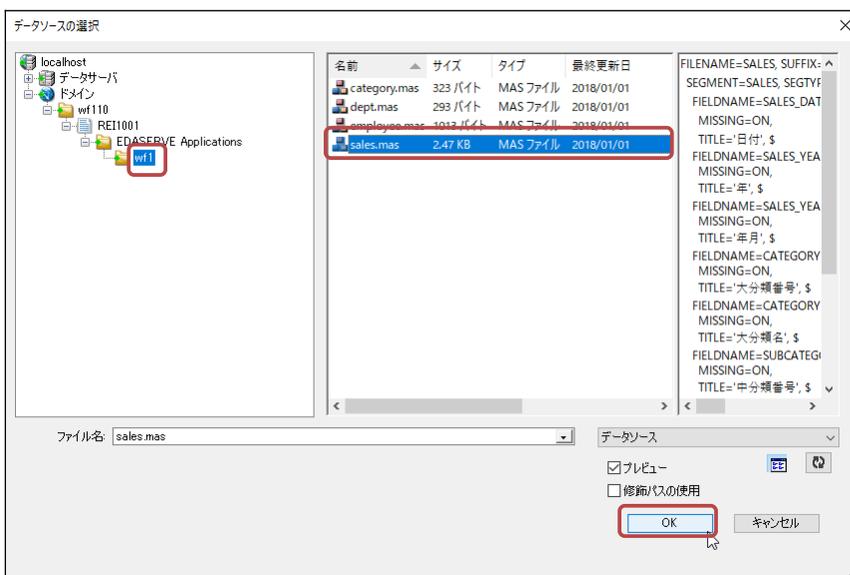
sales.masを使用して、地区名ごとの売上を棒グラフで表示します。
年を選択できるように変数の選択条件、大分類名をAV機器のみに絞り込む固定値の選択条件を設定します。
グラフの種類を棒グラフから円グラフに変更し、売上の大きい順に並べ替えてみましょう。



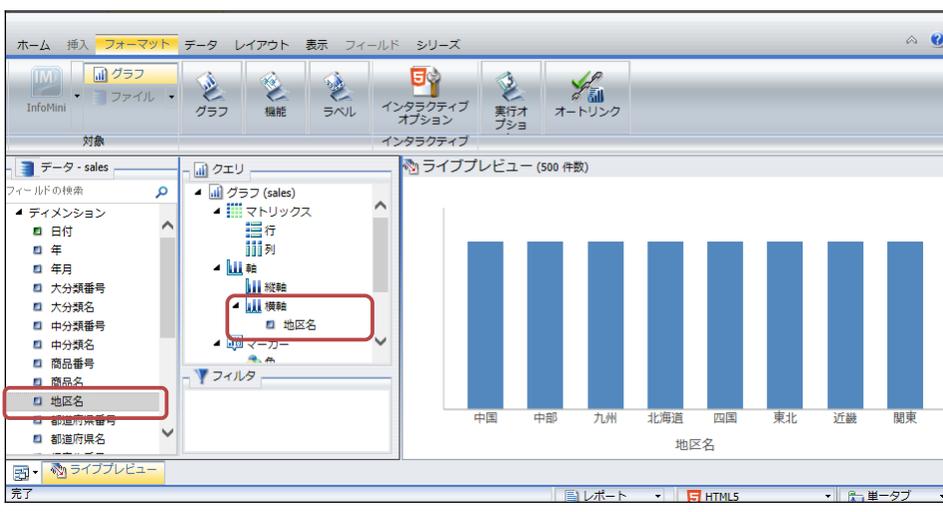
- 1 作成済みのプロシジャを編集します。プロシジャREI1001をダブルクリックします。
[プロシジャビュー]パネルの[コメント]を右クリックし、[新規作成]→[グラフ]を選択します。



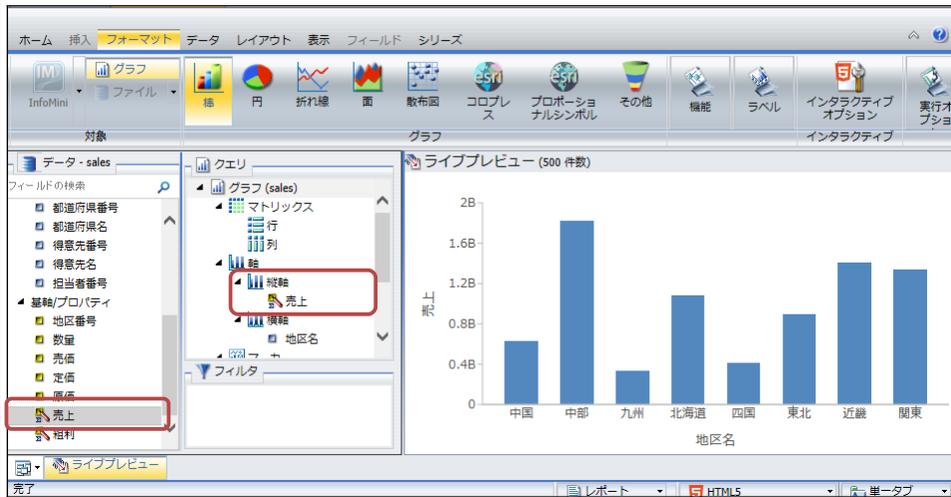
- 2 [データソースの選択]ウィンドウで[wf1]を選択します。
sales.masを選択し、[完了]ボタンをクリックします。



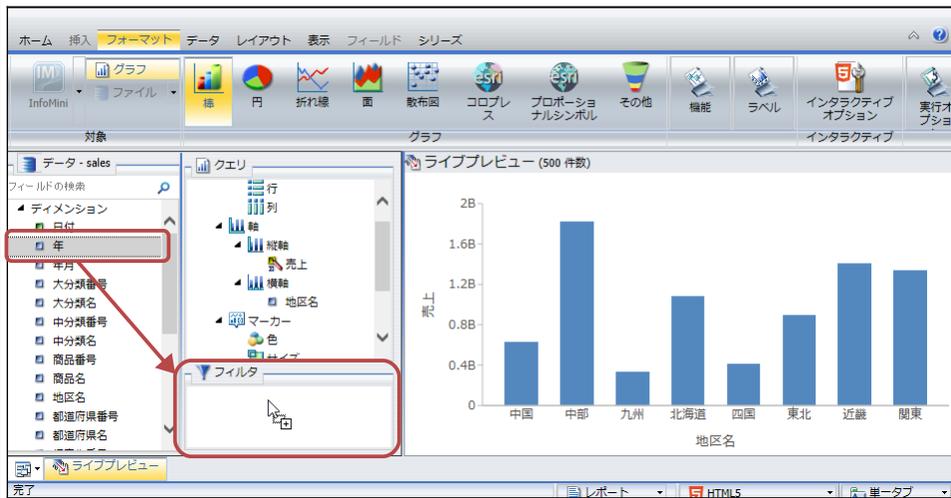
- 3 グラフキャンバスが起動します。
[データ]の[ディメンション]には文字と日付タイプの項目が配置され、ダブルクリックすると[クエリ]の[横軸]に追加されます。
地区名をダブルクリックし、[横軸]に追加します。



- 4 [基軸/プロパティ]には数値タイプの項目が配置され、ダブルクリックすると[クエリ]の[縦軸]に追加されます。
売上をダブルクリックし、[縦軸]に追加します。



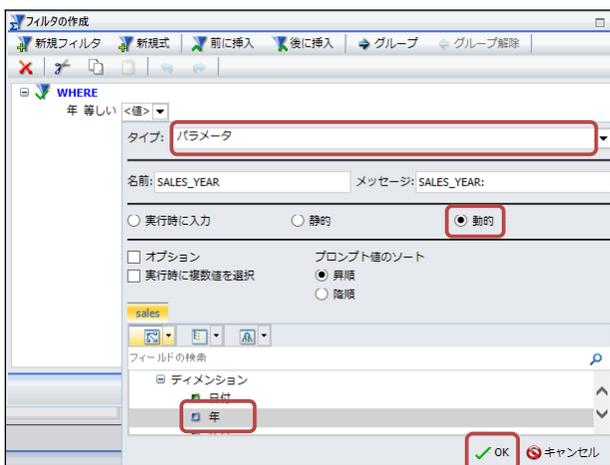
- 5 選択条件を指定します。[データ]から年を[フィルタ]にドラッグ&ドロップします。



- 6 [フィルタの作成]ウィンドウが表示されました。
条件値の設定画面を表示するために、条件式の[<値>]をダブルクリックし、ドロップダウンメニューの▼ボタンをクリックします。



- 7 以下のように指定し、[OK]ボタンをクリックします。
[タイプ]:パラメータ ラジオボタン:動的 項目一覧:年



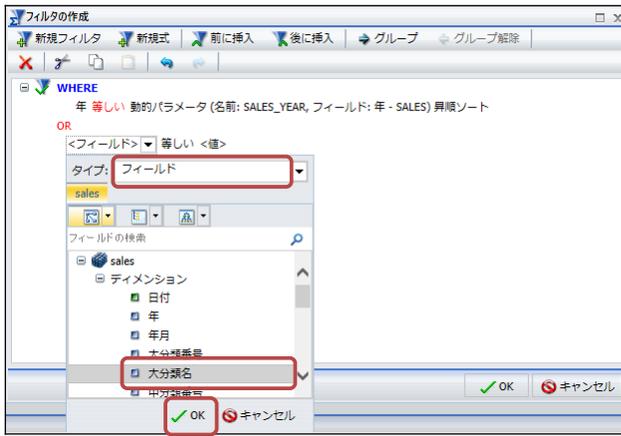
Tip

変数の選択条件の設定は、レポートの設定と同じです。[名前]には変数名、[メッセージ]には入力コントロールの説明を入力します。

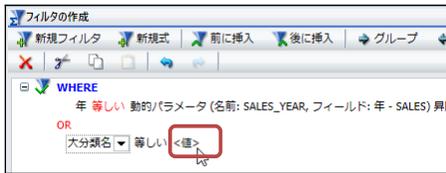
- 8 変数の選択条件が設定されました。
次に、大分類名をAV機器のみに絞り込む固定値の選択条件を設定します。
年の条件を選択した状態で、[後に挿入]ボタンをクリックします。



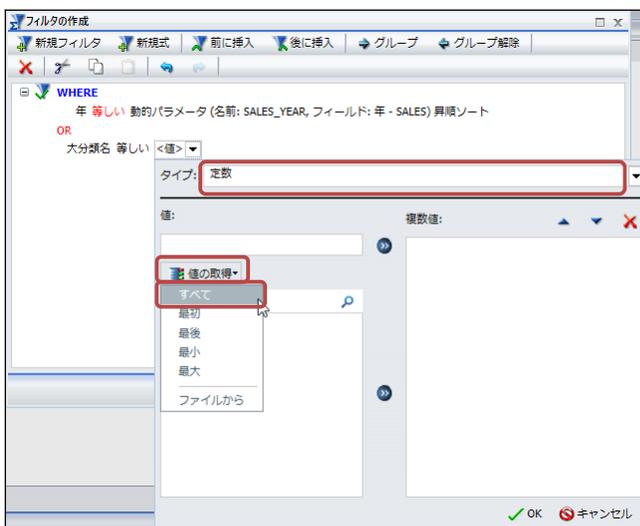
- 9 条件が追加され、項目の設定画面が表示されました。
[タイプ]は「フィールド」、項目は「大分類名」を選択し、[OK]ボタンをクリックします。



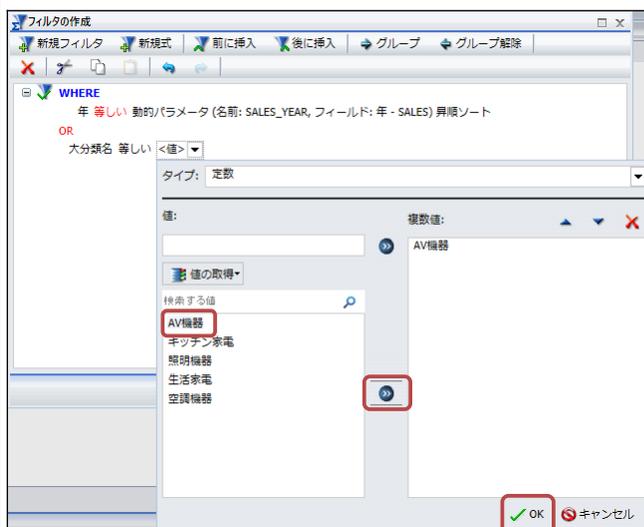
- 10 条件値の設定画面を表示するために、条件式の[<値>]をダブルクリックし、ドロップダウンメニューの▼ボタンをクリックします。



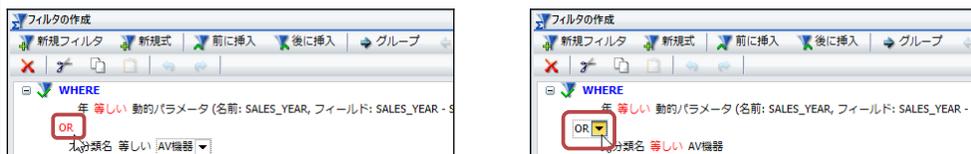
- 11 [タイプ]で「定数」を選択し、[値の取得]をクリックし、[すべて]を選択します。



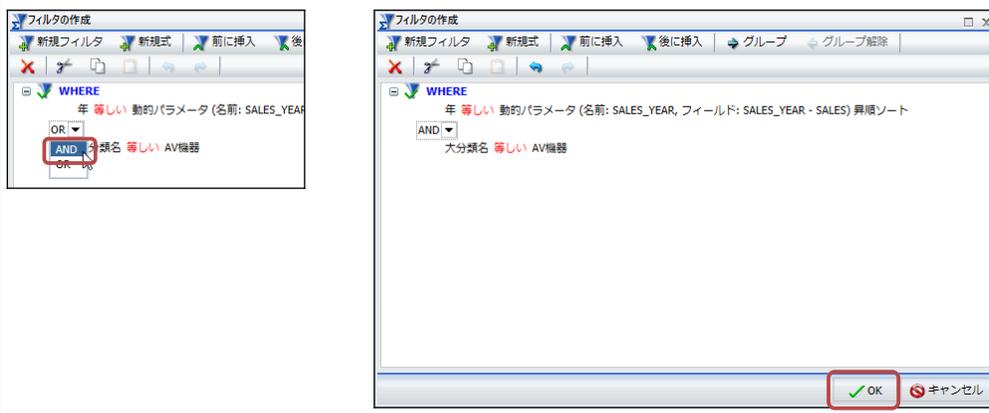
- 12 「AV機器」を選択し、[値の追加]ボタンで[複数值]に追加します。
設定後、条件値の設定画面を[OK]ボタンで閉じます。



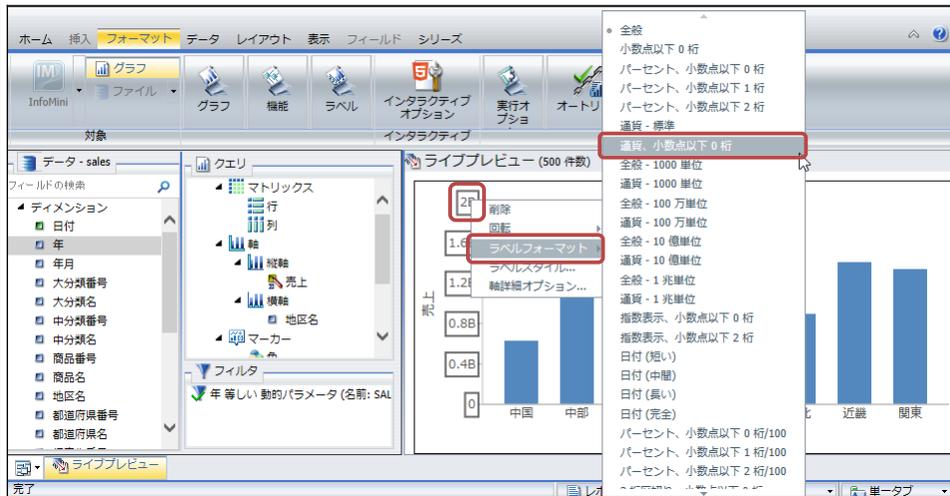
- 13 2つの条件の関係をORからANDに変更します。
[OR]をダブルクリックし、ドロップダウンメニューの▼ボタンをクリックします。



- 14 「AND」をダブルクリックし、設定します。
設定後、[フィルタの作成]ウィンドウを[OK]ボタンで閉じます。



- 15 縦軸ラベルのフォーマットを通貨記号付きのフォーマットに変更します。
縦軸のデータラベルを右クリックし、[ラベルフォーマット]から[通貨、小数点以下0桁]を選択します。



Tip

縦軸ラベルのフォーマットは、リボンからも設定できます。
[フォーマット]タブの[ラベル]をクリックし、[軸]→[縦軸]→[縦軸詳細オプション]を選択し、[縦軸のフォーマット]ウィンドウを起動します。[ラベル]を選択し、[ラベルフォーマット]を変更します

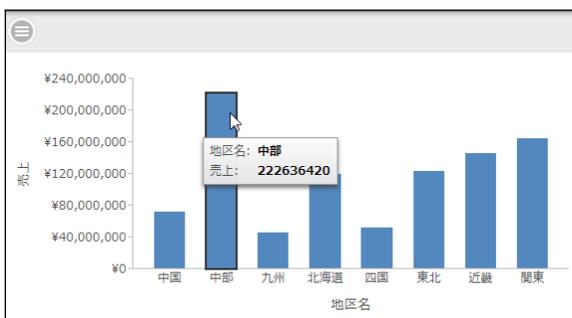
- 16 グラフが完成しました。
任意の年の値を選択して、実行して結果を確認します。



Tip

グラフのサイズは、ブラウザの大きさに応じて自動的に調整されます。

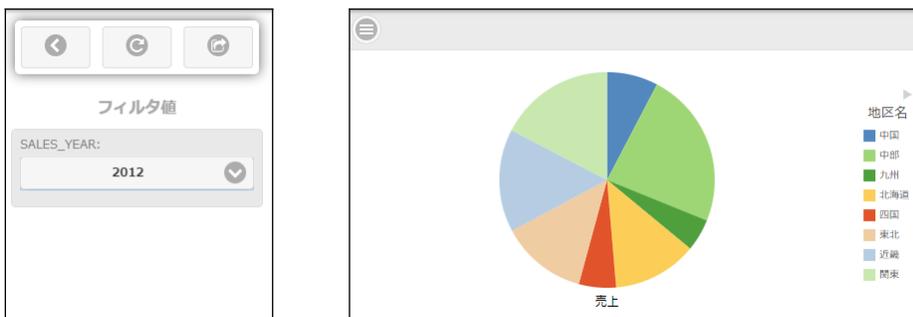
17 各要素にカーソルを合わせると、売上の値がポップアップで表示されます。



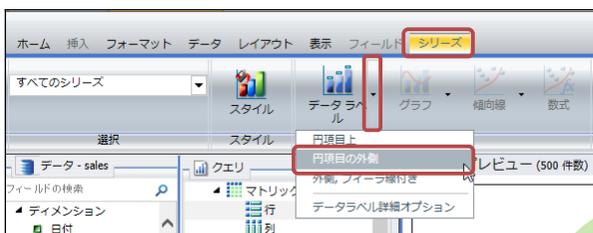
18 円グラフに変更します。[フォーマット]タブの[円]を選択します。



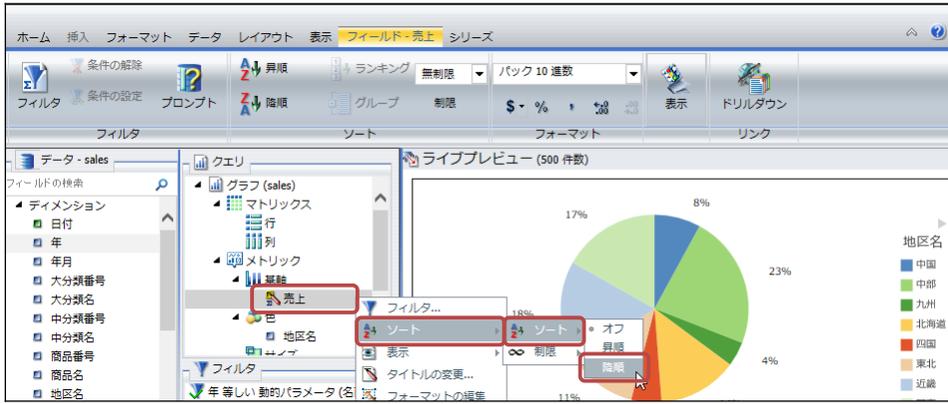
19 実行して結果を確認します。



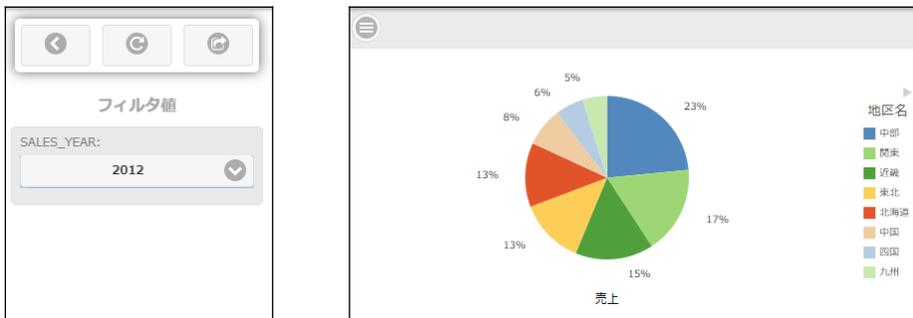
20 円グラフにデータラベルを表示してみましょう。
[シリーズ]タブの[データラベル]の右側の▼ボタンをクリックし、[円項目の外側]を選択します。



- 21 グラフを売上の大きい順に並べ替えましょう。
[クエリ]の[基軸]から売上を選択し、[フィールド-売上]タブの[降順]を選択します。



- 22 実行して結果を確認します。
円の外側にデータラベルが表示されました。また、グラフの要素は売上の大きい順に並べ替えられました。



- 23 [上書き保存]ボタンをクリックし、プロシ ज्याを閉じます。

